

公表

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果

事業所名		子ども発達未来塾一身田		公表日		2025年 12月 10日		
				利用児童数 10名		回収数 7		
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環 境 ・ 体 制 整 備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	5	1		1		運動するスペースを分けており工夫を行っているが、よりスムーズに活動できるよう改善していきたい。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	6			1		職員数は適切に配置している。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	6			1		バリアフリーになっている。こどもにわかりやすい環境整備をさらに工夫していきたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	6			1		清掃・消毒を行い清潔な環境を整えている。こども達にあわせた空間を心掛けているが、さらに改善していきたい。
適 切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	7					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	7					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	7					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	6			1		児童発達支援ガイドラインに沿った支援内容の項目になっている。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	7					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	7					
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	7					
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	7					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	6			1		児童発達支援計画を示しながら、説明を行うようにしている。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	4		1	2		研修会などの情報提供を積極的に行っていきたい。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	7					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	5	1		1		定期的に行っているが、周知徹底を行っていきたい。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	7					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	3		2	2		以前は開催したことがあったが、参加者が少なく延期や個別面談への切り替えなどになった。就労している保護者が多く、開催日の調整が困難である。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	6			1		相談は随時対応させていただいているが、周知・徹底を図りたい。

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	7					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	5	1		1		ブログで定期的に発信しているが、周知を図りたい。アプリを使用し写真などを共有しているが、少し間が空いてしまった為、今後は定期的に共有していきたい。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	7					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	6			1		マニュアルは策定しているが、保護者に周知・説明を行っていきたい。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	7					
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	7					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	6			1		事故等が発生した場合は速やかに保護者に連絡を行っている。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	7					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	6	1				子ども達が通所を楽しみにできるような支援を行っていきたい。
	29	事業所の支援に満足していますか。	7					

公表

児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名		子ども発達未来塾一身田			公表日		2025年 12月 10日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○					
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		利用児童が多い時は職員数を多く配置している。十分な職員人数を配置している。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		本棚やおもちゃなど子どもの手が届くように配置している。バリアフリーになっている。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		整理整頓されている。消毒などを行い清掃している。	子ども専用のトイレが設置できると良い。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		運動する場所は区切られた場所で危険のないように行っている。なるべく個別で指導できるようにスケジュールを組んでいる。			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		毎日業務終了後に1日の振り返りを行っている。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎年保護者の方にも評価表を記入していただき、業務改善の努力を行っている。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		PT・OTの意見を聞き、職員と話し合いを重ねて業務改善に努めている。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		今後実施を行ってきたい。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		業務上必要な研修や資質向上の為研修を受講する機会を設けている。			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○					
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		職員間で情報共有を行い、個別に児童の支援方法を検討している。			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		○		ツールを用いたフォーマルアセスメントやインフォーマルなアセスメントを利用し、より良い支援を行ってきたい。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○					
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		職員間で情報共有して意見を出し合い、立案を行っている。			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○					

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		その日の予定に沿って、連携し支援を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			1日の振り返りを現在よりも密に意見交換をしていきたい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の記録の形式を見直し、支援の改善に努めている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		日々の記録をモニタリングに生かし、必要時は見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		児童が通っている保育園等と情報共有を行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		小学校と情報共有を行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	○		助言を頂いている。	
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		小学校の長期休み中など、法人内の学童保育と交流を行っている。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時や連絡ノートを使用し、保護者と連携を行っている。支援記録を保護者にお渡ししている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		今後は家族参加のできる研修などを行ってきたい。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に説明を行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		保護者と面談し説明、同意を得ている。	

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		複数の家族が参加できる研修や交流会などを開催し、きょうだい同士で交流できる機会を作っていきたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		迅速に対応している。保護者から相談の申し出があれば面談などを行い助言を行っている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		アプリ等を利用し保護者との連携や活動状況、写真を共有している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		コロナ禍以降は地域住民の行事参加への招待を見合わせている。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
非常時等の対応	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPを策定し、防災訓練を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。		○		保護者に確認はしているが、十分ではない。今後詳しく聞き取りを行っていく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○	事業所で食事やおやつを提供を行っていない。	今後食事の提供を行う場合は、医師の指示書を下に対応していきたい。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			作成はしているが、家族への周知が十分でない。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットを共有し、再発防止に努めている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止の研修を行っている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○			身体拘束を行っていないが、やむを得ない時の為十分な説明を行っていく。

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	子ども発達未来塾一身田			
○保護者評価実施期間	2025年 10月 23日 ~ 2025年 11月 20日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数)	7
○従業者評価実施期間	2025年 10月 23日 ~ 2025年 11月 20日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数)	10
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 10日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	共生型の為、高齢者との交流ができる。社会ルールなどを学ぶことが出来る。	デイサービスでのお手伝いや挨拶などにより、社会の中での役割やルールなどを自然に身に付けられるような支援を行っている。	デイサービスでのお手伝いや、本やおもちゃの片づけなど自分ができることは自分で行うように支援していく。
2	法人内の学童保育との交流があり、小学校への入学準備がスムーズに行える。	長期休暇中は法人内の学童保育児童との交流を行っている。	社会的なスキルを培うためには交流活動は良い活動と思われるので、保護者や関係機関に理解してもらえるように啓発を行っていきたい。
3	作業療法士や理学療法士による指導の下、ひとりひとりに沿った支援を行っている。	作業療法士や理学療法士の指導により、職員が統一した支援を行っている。	より良い支援を行うために、今後も話し合いを重ね支援していきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別や小グループでの指導を行っているため、にぎやかさが不足している。また専門家（作業療法士や理学療法士等）による指導を行っているため、児童にとっては負担が大きいかもしれない。	児童発達支援は午前中を中心に個別指導を行っているが、にぎやかさに欠ける傾向にある。年長児は小学校に行く準備のため、午後からの時間（放課後等デイサービス）と一緒にサービス提供をする。	放課後等デイサービスと児童発達支援が同じ提供時間になると、送迎サービスの提供が難しい。
2			
3			

公表

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果

事業所名 子ども発達未来塾 一身田

公表日 2025 年 12 月 10 日

利用児童数 11 名 回収数 7名 (64%)

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	4	1		2		活動スペースは十分確保されていますが、なるべく密にならないよう配慮しています。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	6			1		職員配置数は適切であり、職員は教員や保育士等の免許を保持した職員で構成しております。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	5	1		1		なるべく段差等がないよう配慮し、障害特性に応じた情報伝達に配慮するようにしています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	6	1				日々始業後に清掃を行い、危険なものは目につかないところに置くなどの配慮をしています。
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	6	1				教員や保育士等の免許を持った職員を中心に学習面だけでなく生活全般を専門的な視点でサポートしています。また定期的に作業療法や理学療法の講師による療育プログラムを実施しています。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	7					支援プログラムに基づき、事業所としても支援を提供しています。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	7					保護者からの意見を聞き取り、担当者で内容を吟味した上で支援計画を作成しています。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	5	2				今年度からは本人支援のみならず、家族支援や移行支援についても個別支援計画に記載させていただいています。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	6	1				計画の内容に基づいた支援を行っており、定期的にスタッフ会議を開催し、支援について協議や情報共有を行っています。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	6	1				児童が楽しんで取り組めるような活動を考案し、実施しています。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	2		1	4		同じ敷地内に放課後児童クラブが併設されているため、一緒に活動をする機会があります。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	6			1		契約時に支援内容や利用者負担額等の説明はしていますが、不明な点やご質問があればその都度説明をさせていただいています。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	7					お迎え時等に変更点等があれば説明をしています。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	1	2		4		家族も参加できる研修会などの案内は事業所内などに広告を掲示するなどしている。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	7					常に健康や発達の状況を観察し、気付いた点があれば保護者にお伝えしています。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	4	1		2		必要に応じて保護者様には助言をさせていただいています。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	7					常に子どもたちに寄り添い、良いところは十分に褒め、悪いことはいけないと指導させていただいています。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1	2	1	3		保護者会等は存在しておりませんが、コロナ禍も収束してきましたので、保護者や兄弟姉妹も参加できるようなイベント等も今後検討していきたいと考えております。

	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	6	1			苦情・相談受付窓口の詳細については重要事項説明書に明記しております。また苦情があった際には事業所内で情報共有し、迅速に対応するようにしています。内容によっては当該児童や保護者への説明も行ってあります。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	7				LINEや連絡帳、メール、お電話等で迅速に情報を伝達するようにしています。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	6			1	連絡についてはLINEで迅速にお伝えするようにしています。また活動内容についてはInstagramにて個人情報に配慮しながら掲載させていただいています。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	7				必要最小限の範囲内で使用させて頂いており、重要事項説明書等にも明記させて頂いています。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	6			1	非常時に備えてマニュアルについては全て策定しております。発生を想定した訓練も年に2、3回実施しております。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	7				長期休暇中の年に2、3回、避難訓練や消火訓練などを実施しています。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	6	1			安全を確保するための情報については随時お知らせしています。また常に安全の確保は行われた上で支援を行っています。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	5	2			事故等が発生した際にはLINEや緊急連絡先等へ早急に保護者様にお伝えさせて頂くよう心がけております。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	7				子どもたちが安心して通所していただけるよう配慮していきます。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	7				通所を楽しみにして頂けるよう職員一同尽力してまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	7				今後も引き続き子どもたちが楽しめるような企画を考え、実施していきます。

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名		子ども発達未来塾 一身田				公表日	2025 年 12 月 10 日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			児童が安全かつ安心感を持って頂けるような環境作りに継続して取り組みたい。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○			職員配置数は適切であり、職員は教員や保育士免許などを保持した職員で構成しております。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○		なるべく段差を解消したり、車いすが通れるようにはなっているが、さらに改善できる余地はある。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			始業前等に施設内外の清掃を随時行い、環境の美化に努めています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			静かな環境での学習を希望したり、食べ物のおいが気になる児童については別室を使用して頂いています。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			保護者の評価結果と併せて分溺死、保護者の思いを大切にした支援や連携の強化に向け、討議提案の上、実施していきたい。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			定期的にスタッフ会議を開催し、その場で意見交換を行い、その意見をもとに業務の改善につなげている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		今後情報を得て、実施について検討したい。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○			より幅広い職員に研修の機会を提供し、その内容を全体にしっかり周知できる体制を取っていきたい。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○			相談支援事業所などの外部関係機関との連携をさらに強め、支援計画現場の実践に生かされるようにしたい。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			児童発達支援管理責任者だけでなく、その他の職員とも情報共有を行い、会議においてその児童にとって最善の支援方法について検討しています。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			会議を定期的に行い、その場で情報共有を行い、計画をもとに支援を行っています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		○		様々なアセスメントツールを取り入れ、現場の計画により生かしていけるように意識して取り組んでいきたい。	

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			令和6年度より個別支援計画書の書式や記載する内容に変更があったため、放課後等デイサービスガイドラインに沿って内容を設定しています。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			今後も職員間で意見を出し合える体制を取り、関係機関との連携を強め、活動プログラムの立案を行いたい。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			引き続き利用児童が意欲関心の持てる内容にしていきたい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			適切に行うと共に、放課後児童クラブ併設の利点を生かして効果的な支援を行えるよう工夫していきたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		日常的に職員間のコミュニケーションをとるようにしている。	職員間のコミュニケーションを図り、継続して引継ぎ等がスムーズに行われるよう工夫していきたい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		日常的に職員間のコミュニケーションをとるようにしている。	職員間のコミュニケーションを図り、継続して引継ぎ等がスムーズに行われるよう工夫していきたい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の記録を取りやすいような書式にしている。	職員一人一人が日々の記録を正しく行い、管理者が確認するようにしています。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		日々の記録をモニタリングに生かしている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		ガイドラインを常に閲覧しやすいようにしている。	
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		支援者側の都合にとらわれず、児童が自己決定できるような場面を作り、支援を行っている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			今後も会議のみならず、日常的な情報・意見交換に努めていきたい。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。		○		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		問題発生時などに迅速に連絡・連携体制を取るようにしている。	日常的な連絡・連携体制と併せて、状態像や支援内容などの情報共有にも意識して取り組みたい。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○		今後も連携を強め、情報収集・提供や学習を深め、相互理解に努めていきたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○		卒業による移行については今まで前例がないが、他の機関への情報提供は行っていききたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○		今後は地域の児童発達支援センターとも連携を図り、助言や研修を受ける機会を設定していきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			放課後児童クラブが併設されているため、その利点を生かして支援がより効果的に行えるように努めていきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○		機会があれば参加し、情報共有をしていきたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時等に伝達の機会を持つようにしている。	送迎時における伝達や連絡帳の記録などを基本に相互理解の深まりを目指しているが、今後面談など直接的なかわりの機会を少しずつ増やしていきたい。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		保護者との連携を強める動きと併せて検討していきたい。

保 護 者 へ の 説 明 等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			今後も保護者に分かりやすく説明できるよう心がけていきたい。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			今後も相談しやすい環境や体制づくりに努めていきたい。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		父母会や保護者会は存在しておらず未実施であるが、保護者との連携を強化し、保護者間のつながりの大切さを踏まえ討議の上、側面的に支援していきたい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		契約時にその内容と体制について説明している。	契約時の説明を継続し、苦情等が発生した場合はマニュアルに従い、誠実に対応していく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○			活動概要や行事予定等の情報は書面やSNS等で発信しているが、今後も引き続き情報発信していきたい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報を含む書類等は鍵のかかる書庫に保管している。	個人を特定する内容は発信しない、書類を保管している書庫は施錠するなど、しっかりとした個人情報の保護に努めているが、常に細心の注意を払い、保護者の意思確認や心情等
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			利用者・保護者向けの情報やイベントなども含め、積極的に発信し、情報共有を図り、前向きな取り組みをしていきたい。
非 常 時 等 の 対 応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		現状は未実施であるが、今後は地域住民を招待するような行事について検討していきたい。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			各種マニュアルは整備されており、定期的に訓練は行っているが、家族への周知はまだ不十分な点もあるので、さらに周知していきたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			避難訓練については定期的に行っている。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○			契約時等に服薬や病状などをお伝えしていただき、職員間でも情報共有している。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			おやつや食事を提供する際には生命に関わるものとして緊密に連携・確認を取るようになっている。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		個々の事例について会議や打ち合わせ時に確認している。	情報を収集・共有し、事故を未然に防ぐ手段として上手く活用できるようにしたい。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			虐待防止法の目的や責務を踏まえ、より充実した内容で効果的に実施していく。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		人権擁護の立場で支援に当たっている。	これまで該当するケースがなく未実施であったが、今後に備えて準備を進めたい。

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	子ども発達未来塾一身田		
○保護者評価実施期間	2025年 10月 20 日 ～ 2025年 11月 30 日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11 (回答者数)	7
○従業者評価実施期間	2025年 11月 1日 ～ 2025年 11月 30 日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10 (回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 10 日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多彩なプログラム	・季節に合わせた行事やイベント、外出行事、高齢者や放課後児童クラブとの交流の場をていきょうするなど、年間行事に取り入れて実施している。	・引き続きLINEにて活動の様子の写真や動画を保護者に送信したり、Instagramでは個人情報に配慮した上で掲載させていただく。
2	個別・集団での活動	・日々のプログラムは子どもたちのニーズに合わせて個別の活動（療育）、小集団での活動（工作などの創作活動）、集団（各種イベントやゲームなど）を通して多様な体験ができるように支援している。	・長期休暇だけでなく、平常時においても短時間でも実施できるようなプログラムを検討していく。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	学校休業日の外出行事	・長期休暇など学校休校日の外出活動は定期的に実施できているが、学校授業時の外出ができていない。	・学校や学年により下校時間が違うため、来所時間に差がある。全体ではできなくても小集団でできるよう検討していく。
2			
3			

事業所名

子ども発達未来塾一身田（共生型放課後等デイサービス）

支援プログラム

作成日

2025 年

12 月

1 日

法人（事業所）理念		豊富な知識と確かな実践を礎に、豊かな人間性と生きる力を持った子育て支援を行っています。										
支援方針		・長年、障害児支援に従事した職員により、各種療法・外遊び・イベント工夫を壊して療育を行っています。 ・同一敷地内にある高齢者・障がい者デイサービス利用者や学童保育利用者との交流を通じて社会性を育む療育環境づくりに努めています。										
営業時間		平日	14	時	0	分から	17	時	0	分まで	送迎実施の有無	あり（片道30分以内を想定しています）
		学校休校日（土曜は月2回程度）	9	時	0	分から	17	時	0	分まで		
		d										
本人支援	健康・生活	子どもたちが健康的で自立した生活が送れるよう、子どもたちに寄り添い共に取り組みます。 ①毎日帰ったらすぐに手洗い・消毒を行います。 ②部屋のレイアウトや掲示物の可視化、片付け方など空間の構造化を図ります。										
	運動・感覚	感覚刺激を取り入れた手先の細かい作業や遊び・療育などで身体を動かして体幹を鍛えます。また理学療法や作業療法士によって視覚・運動感覚の統合・協調運動の向上を図ります。 ①アイロンビーズやプラ板などの工作活動を通して手先の巧緻性の向上と感覚認知形成を図ります。 ②裏の自社グラウンドや山、ログハウス、畑などに出かけて、体を動かしたり、作業をしたり、場所と目的にあった適切な過ごし方を学びます。										
	認知・行動	認知の特性に合ったカリキュラム（脳トレ・パズル・お金の計算など）を使用し、認知機能を高めます。 ①積み木やブロックなどを活用し、視覚的支援を提供します。 ②お金の学習としておもちゃのお金などを使用し、まずはお買い物ごっこでシュミレーションし、実際にお買い物に行くことへ繋げていきます。										
	言語コミュニケーション	様々な機会を通して言語の発達に合わせたコミュニケーション能力を高めます。 ①あいさつや日常の会話を通して円滑なコミュニケーションを図ります。 ②身振り手振りやジェスチャーなどの非言語コミュニケーションで相互理解を図ります。										
	人間関係社会性	社会性や円滑な対人関係の発達を促していく環境調整及びかわりを実践していきます。 ①一人遊びや集団遊び（カードゲームやボードゲーム等）を通して自己理解や他者理解を養います。 ②近隣住宅街の公園などに出かけ、道路や公共の場での交通ルールや公共のマナーに関する知識を養います。										
家族支援		・送迎時に学校やご家庭での様子を共有する時間を設け、また連絡帳やLINEなどで情報共有を行い、今後の療育活動に生かします。 ・日頃の様子や課題については定期的な会議などで話し合い、お子様の成長を見守ります。							移行支援		・学校や家庭、放課後等デイサービスでの様子や支援の取り組みについて情報共有を行い、それぞれの子どもたちに合った共通の対応を行います。	
地域支援・地域連携		・図書館や文化会館など地域の公共施設を利用し、地域資源を活用します。 ・地域の学校や福祉サービスと連携し、包括的な支援体制を整えます。							職員の質の向上		・各種研修会や勉強会に参加し、職員が積極的に学べる機会を整備しています。 ・職員の専門性を高めるために資格の取得を奨励しています。	
主な行事等		季節の行事：お誕生日会・夏祭り・クリスマス、ハロウィン等の実施。 食育活動：クッキング・野菜の栽培と収穫										

(別添資料1)

事業所名

子ども発達未来塾一身田(共生型児童発達支援)

支援プログラム（参考様式）

作成日

2025 年

12 月

1 日

		豊富な知識と確かな実践を礎に、豊かな人間関係と生きる力を持った子育て支援を行っています。					
支援方針		一人ひとりの個性を大切に、丁寧に寄り添いながら支援を行います。併設施設には、高齢者・障がい児・者デイサービス、学童保育があり、障害の有無にかかわらず、幅広い世代が共生するインクルーシブな環境を提供します。他者とのかかわりの中で、自主性や主体性を学び、はぐくめるよう支援していきます。					
営業時間		9 時	0 分から	17 時	0 分まで	送迎実施の有無	あり なし
		支 援 内 容					
本人支援	健康・生活	基本的な生活習慣を身に着け、身の回りのことが自分でできるようになるよう、繰り返し丁寧に声をかけ、支援していきます。					
	運動・感覚	安全に配慮し、理学療法士や作業療法士の指導のもと、機能訓練室、自社グラウンド、学童保育ホールで体を動かし、体幹や平衡感覚が身につくように支援していきます。また、リトミックや音楽に合わせて体を動かすなどの活動も取り入れるなど、視覚や聴覚からも支援も行います。					
	認知・行動	製作や遊びの中で、色や形、物の名前などを知り、できた時の満足感や達成感を味わえるように、一人ひとりに合わせた活動を提供します。					
	言語コミュニケーション	歌を歌ったり、手遊びをしたり、絵本の読み聞かせなど、楽しみながら言葉に触れる機会をつくり、子どもたち一人ひとりと丁寧なコミュニケーションも心がけながら、他児との関わりも増やしていけるように遊びを提供したり、仲介したりなど、たのしみながら関わりを増やしていけるように支援していきます。					
	人間関係 社会性	デイサービスの利用者や学童保育の児童など、様々な人とのかかわり、ふれあいの中で、状況や環境に応じた過ごし方、かかわり方などが身につくように側で見守りながら、支援していきます。					
家族支援		保護者の方との面談など、定期的に行います。				移行支援	一人ひとりの様子に合わせ、他者とのかかわりやコミュニケーションがとれるように支援を行います。
地域支援・地域連携		デイサービスの利用者や学童保育の児童などのかかわりが多く持てます。保育園や関係施設との連携も行います。				職員の質の向上	週に一度、ミーティングや振り返り、計画などを行います。また、専門家の先生方からの指導もいただきます。
主な行事等		お誕生日会・農作業・スイカ割・芋ほり・ハロウィン・クリスマス・餅つき・お正月行事等の実施。					